臺灣新民報 夕刊 帳簿
十一月九日
毎週木曜日休刊
臺北市表町二丁目一番地
社報新日日新聞臺北支所 發行所
昭和十一年十一月九日第二種郵便物認可 (毎月一回発行) (京城郵便局) 【第一面】

自由主義の堅持か 統制主義へ轉向か

民政、政友兩黨の惱み

民政黨

【東京九日發】政黨内閣の確立を目指して政黨内閣の實現を期し政友會内の擧國一致内閣運動に對し民政黨内少壯派は絶對反對の態度を明かにし政友會内の革新分子と提携して政黨内閣の實現に邁進すべしとの聲が擡頭しつゝあり、若槻總裁は之等少壯派の動向に對し之を抑へつゝ政友會との提携を進むべしとの態度に出でんとしつゝあるが、之等少壯派の動向は擧國一致内閣の實現に對し重大なる關係を有するものと見られ、今後の推移は注目されるところである。

【東京九日發】政友會内の革新分子は、政友會の現狀は國民の輿望に副ひ得ざるものありとし、政友會の現狀打破、擧國一致内閣の實現を期すべしとの聲が擡頭しつゝあるが、之等革新分子の動向に對し民政黨内の少壯派は、政友會内の革新分子と提携して政黨

セゴ兩橋を占據し遂に首都に進入

スペイン革命軍發表

【アヴエラ八日發同盟】革命軍發表、革命軍は八日午後遂にセゴヴイア橋及びブリンセツサ橋を占據首都に進入した

首都中心に向ひ進擊

【セヴイリア九日發同盟】セヴイリアの革命軍放送局は八日夜半左の如く放送した

革命軍は八日夜半遂にマンサナレス河のトレド、セゴヴイア兩橋を占據し同河兩岸を完全に手中に收めた、革命軍は目下首都中心に向ひ進擊中

首都死守をつづけ果敢な反擊を開始

革命軍陣地に猛擊

【マドリド八日發同盟】スペイン政府軍は政府側からの發も依然首都死守の決意を固めず八日挑發以來マドリド市内の各所に果敢な反擊を加へ革命軍の猛擊を下し……

【セヴイリア八日發同盟】スペイン革命軍の發表によればカバリエロ首相は八日夜セヴイリアに飛行機で首都を脫出しアリカンテに着陸したと言はる、更に同地に先立ち外交團……

カバリエロ首相

アリカンテに都落ち

ソ聯大使と飛行機で

【セヴイリア八日發同盟】スペイン革命軍の發表によればカバリエロ首相は八日夜セヴイリアに飛行機で首都を脫出しアリカンテに着陸したと言はる、更に同地に先立ち外交團……

【バレンシア七日發同盟】スペイン政府は七日カバリエロ首相同乘の下に軍事部一次顧問ソヴエツト大使コーロンツオフ氏を伴ひ六日夜バレンシアに都落ちしたと言はる、更に同地に先立ち外交團……

"退却は首都放棄及び政府軍の降服に非ず"

遷都事情聲明を發表

【バレンシア七日發同盟】スペイン政府は七日カバリエロ首相同乘の下に軍事部一次顧問ソヴエツト大使コーロンツオフ氏を伴ひ六日夜バレンシアに都落ちしたと言はる、更に同地に先立ち外交團……

民風作興協議會

あす臺北市で開催

國民精神作興部落會町内會聯合會

詔書奉讀式

新公園で嚴肅

東京紐育間を一飛び

優秀な國産機成る

東大航空研究所努力の結晶

近く正式にテスト

問題の人物

廿數名を乘船拘束

一問も生を認めて居る(一)

哀れ情熱詩人"花外"

養老院に收容さる

救護法の適用

前科者の惡運

大倉男。イタリーに

日本文庫を寄贈

數十萬圓の私財を投ず

カバリエロ首相

アリカンテに都落ち

ソ聯大使と飛行機で

首都中心に向ひ進擊

【セヴイリア九日發同盟】セヴイリアの革命軍放送局は八日夜半左の如く放送した

革命軍は八日夜半遂にマンサナレス河のトレド、セゴヴイア兩橋を占據し同河兩岸を完全に手中に收めた、革命軍は目下首都中心に向ひ進擊中

首都死守をつづけ

果敢な反擊を開始

革命軍陣地に猛擊

【マドリド八日發同盟】スペイン政府軍は政府側からの發も依然首都死守の決意を固めず八日挑發以來マドリド市内の各所に果敢な反擊を加へ革命軍の猛擊を下し……

公判廷に現はれたお定

例の情婦犯罪部定(三)の豫備公判は四十日午前時十分から東京刑地方裁判所第一號法廷で開かれた、非公開なのだがそれでも此人氣者の顏を一目でも見んものと物好きな男女がワンサと押しかけたお定は紺絣と紺の縞織お召の袷に黒地小紋縮緬の羽織、小袖でもロ數すくなく靜かに泊を莨びながらいそ〳〵と入廷、法廷には竹内弁護士が待受け豫審調書に上通り記事を讀み聽かせて何か相違することがあるかと訊ねたがお定は首肯するのみにして簡單に問答、ニヤ〳〵笑つて退廷した第一回公判は來る廿五日、辯護はいそ〳〵と入廷の豫定

內地視察の警官一行

下關に上陸

【門司九日發】臺灣各州廳警察部警官內地視察團(團長臺北州警務課長廣瀨良弘)一行十五名は九日朝門司着港の瀨戸丸で下關に上陸午前九時十五分發列車で東上した

墓地荒し

【基隆電話】去る七日夜より八日朝にかけて基隆市明治町岡山本島……

兵隊さん來るの報に

新竹市民大喜び

早くも歡迎準備に著手

【新竹出張】……

沖繩の少女を連れた擧動不審の男

基隆に上陸し取調べらるゝ

【基隆電話】……

金塊密輸事件の傍證固め進む

州刑事課員再び基隆へ

【基隆電話】……

ヘロイン密賣

一味十數名を檢擧

遠く對岸にまで賣捌く

茶紅東日

三井合名會社賣買部

風邪は萬病の基　バンコーはカゼの妙藥　發賣元　新原泰生堂

特許　辯理士　清水治

外交販賣員

病人食物　牛乳　半正

日本一の產額　日本一の品質　日本一の信用　日本一づくめ

イカソース

和洋結髮と御結婚の御支度は是非共　市橋美粧園で

會葬御禮　熊谷孝平　親戚一同

あすの天氣

▲島內定期航空東京線下り便スーパー號は九日午前九時三分臺北飛行

御殿女中（96）

（第十一回）

邦枝完二作　神保朋世画

奇縁（十二）

「おい兄貴。やよいさんをここへ呼んでくんねえ。」

手拭で頭巾をはめたおころを横抱きに抱いたまま、腰をかけて居た谷中の一軒の家の二階の閉てる前に立つた定吉は、低い声で呼びかけさまにかう云つた。

「誰だ。」

「おれだ。藪蕎麦の定吉だ。」

「おお、定吉兄ぃか。心張ア掛ケちやアねえから、這入ぇ御けねえ。」

「持ち物があるんだ。済まねえが立つて来てくんねえ。」

「持ち物だつて。」

さう云ひながらあわてて出て来た男は、いきなり雨戸をがらりと開けたが、つと大きな眼を瞠つた。

「おけアあねえ。直ぐに彼うを開めてくんねえ。」

「合点だ。」

二人ぴたりと雨戸を閉めさせてから定吉はそのまま縁へ上つた。

「お櫻さんは。」

「神田まで行つて留守だ。」

「そいつア厳ぇ。もつとばかり荷ありで、この荷を処理にここへ連れて来たんだが、兄弟、小半時ばかり預かつてくれねえ。」

「どうで呑んでいるんだ。小半時なんぞと云はねえで、半日でも一日でも、勝手に使つてくんねえ。」

「そいつア有難ぇ。」

「おれも用あつて、王所まで一仕事かけようと思つてたところなんだおめへが来たのを幸ひに、留守番がてら帳場から、思ひ存分使つていやいやな。」

「色男ちやねえ、御仁慈に預けにたんより出てから頼むぜ。」

「冗談にいうねえ。色男で、なんぞでもおめへ（略）にかけて（略）

（略）

（略）

首相決定闡明所信
一掃政黨誤解
訂來十六日議院制度總會

東京八日電。政府因議院制度調查會要求。訂來十六日午後二時。在首相官邸。開調查會臨時總會。廣田首相。爲調查會長。決定出席。聞明議會制度改革所關之所信。以釋委員之誤解。其聞明要旨。大體如左。

一、議院制度調查會之設置。在政府尊重衆議院之院議。諮問調查會制度改正其他案件。

二、首相之言明。公式否定。然政黨對軍部案之衝擊。意外深刻。果否首相寺內陸相之言明。能使調查會。乃至政黨釋然。所爲注目云。

行政機構改革案
竝議會制度刷新
海軍雖要望似不相强

東京九日電。海軍與陸軍共同。日前於廣田首相處提出行政機構改革案。靜觀四相會議之成行。發於九日開四相會議。使長谷川次長。直將海軍意向說明。而海軍此回提出改革案。想不容絕對的。只希參考案之程度。不以相貫徹。唯望關係閣僚徹底愼重審議。如有優於軍部案之代案。不妨採用又議會制度之刷新。海軍亦要望其實現。勿論照應法條等云。

內務省決定
四社會立法
提出議會

東京九日電。內務省社會局。鑒之現下社會情勢。銳行現。內閣國民生活安定對策。方爲調查考究。決定來通常議會。提出國民健康保險法案。商店法案。救護法改正案。軍事救護法改正案。急爲準備云。

綏遠軍事會議
決定示策

北平八日電。綏遠省政府主席傅作義氏。七日在綏遠。開軍事會議。照蔣介石氏。閻百川。宋哲元。各軍事會議。欲於來二十日州會議。開催。泰北州至來十二月上旬。欲設米穀統制組合。受總督府補助。新設統制倉庫。州下按十處云。

王公廟諸建築
落成誌盛

新營郡新營街王公廟部落振興會集會所。及農事實行組合事務所。同倉庫改良豚舍。堆肥舍。浴室。共同便所。（除乾燥場百五十坪）計百三十三坪。工事費三千八百七十餘圓。自八月十五日興工。此回完成。去八日上午十時起招待知事代理。田口州視學。林郡守。大澤。野里兩課長。淺野製糖所長。各街庄長。街庄方面委員。郡下各部落振興會長。其他有志。多數到席。午後一時。式畢繼在校庭開祝賀會。三百六十餘名兒童。希躍競技數十回。受興徽章十一般云。

水産建議
擧實行委員

全州水産大會。臺灣水産會決議事項。日前於臺北市協和會館商量結果。擧木村泰治。近江時五郎。和泉種次郎。林準二。加藤半吉五氏。爲實行委員。近日中將向督府建議請願云。

將軍公校
昇格祝賀

北門郡將軍公學校。去七日午前八時起。在該校々庭。擧行昇格祝賀式。當日白仁郡守。玉川視學。竝各來賓父兄二百餘名臨席。式畢繼在校庭開祝賀運動會。三百六十餘名兒童。希躍競技數十回。受賞如左。

都市農村經濟繁盛
補助貨流通額增加
因農産增收工業活況

金融繁忙一原因之政府資金散布狀況。除米藏券公債之金償還。由政府當座貯金之增。減關係推算之。年初來至十月末。散布超過二億七千八百萬圓。比前年同期。約減二億圓。年初來五分利債之切限到來。或及早償還。民間現金償還二億千六百萬圓。與昨年無大差。年初來至九月之郵貯增加額。

高雄神社
詔書奉讀式

高雄市。十日克已日。午前八時半。于高雄神社前由松尾市尹外官民多數參列之下。擅行奉讀式。竝遙拜祠官。宮城及詔書奉讀式。先是午前八時。于神社集中祭。又同日共同戰線事實上已成立。最近舉例如左。

一、北平各大學々生二十二名。

擬自看後。一、陳立夫。

北平師範大學教授學生。爲中心之抗日通電且發表。

一、清華。燕京兩大學々生。其他一千名學生團。七日參觀第二十九軍演習後。同軍民大會。演說抗日。推波助瀾。

一、北平各大學々生。發起罹災慰問團。各校代表百數十名。七、八兩日。潛入郊外各農村。撒布宣傳單。激越演說。

一、清華大學。派代表者於綏遠省政府首席。傅作義處。要請團體結成。竝徵還積極防備。

一、北平各大學代表。且請願救助。

學生團與軍隊
結成共同戰線

北平八日電。南京交涉。等。戰線且爲結成。況學生團對軍隊之抗日共同戰線擴大工作。藉軍隊對問之名。頻謀兩者接近。鼓吹抗日思想。第二十九軍士卒。與學生抗日團。抗日參觀第二十九軍演習後。同軍民大會。演說抗日。推波助瀾。

一、北平各大學々生。發起罹災慰問團。各校代表百數十名。七、八兩日。潛入郊外各農村。撒布宣傳單。激越演說。

一、清華大學。派代表者於綏遠省政府首席。傅作義處。要請團體結成。竝徵還積極防備。

一、北平各大學代表。且請願救助。

米穀統制
籌設組合
建統制倉庫

本年內產米。皆豐收。過剩米必精。米穀自治理。法保管臺灣第二期。作蓬萊米。須爲貯藏。總督府米穀課。督勵各州從速準備。臺北州不日將召集郡守市尹。磋議米穀統制組合。組織之事。但因藤田知事初巡視市郡多忙。故先召集市郡。直接從事之商工主任竝係員三十名。六日開米穀統制座談會。而郡守。市尹。參紅褚俏酒。至一時半。各資主愛歌舞々而散。餘興。軍以來。未曾有之盛況。同夜映寫電戲。非常熱鬧。

登山會主催
大衆登山
參加約五百名

區長精神作興週間第二日之八日。鍛鉢日。由趣味登山會主催。臺北市教化聯合會後援。臺行大衆登山。參加者臺北市內三百六十名。其他基隆。淡水。新店。深坑。石碇。木柵。汐止。松山。錫口。內湖。七星。北投。士林。八里坌。金包里。三芝。石門。三重埔。蘆洲。五股。新莊。泰山。林口。鶯歌。樹林。海山。板橋。中和。土城。三峽。鶯歌。桃園。中壢。楊梅。新屋。觀音。平鎮。龍潭。內壢。埔心

メトセ・キヤンボン
口の開くキセル 口の開かぬキセル

改正臺北市全圖
定價金壹圓
臺灣日日新報社販賣課

信濃海運船員募集

臺灣航路船員募集

臺灣航路船員募集

株券無效公告

臺灣紙業株式會社

臺灣新民日報

本日夕刊共二十頁

編輯兼發行人 佐々木 卓

臺北市榮町七丁目廿四番地
社電話 日日 二五〇〇番

日本教育家 豫約募集

全四十八卷・壯四冊配本

顧問 井上哲次郎 德富蘇峰
監修 乙竹岩造 西田直次
編輯 後藤牧太 宗仁猛見 星野弥吉

本配第一回配本（中本配下目）
日本教育の理念
井上哲次郎著
菅原道眞

吉田熊次著

北海出版社
東京市麹町區飯田町六ノ七
電話牛込二九七七番

徹底的蒐集全集秘

現代日本文壇最高記錄保持者 德田秋聲の全集遂に成る

刊行の辭 島崎藤村

德田秋聲君が長い文學生涯を記念するために、數名のものが發起人となつて秋聲全集の刊行を思ひ立つた。この發起人中には曾て君に師事したものもあり文學上の友として君と一緒に歩いて來たものもある。世に多き全集刊行の企てとはいさゝか趣を異にする。老熟無雙、作の經驗に富むこと文壇第一ともいふべきこの作者の全貌を窺ひたいと欲する讀者諸君は、この全集の世に出つることを心からの深い歡びとし、また誇りともするもので、世に稀れ、讀者諸君はこゝに正直純粹な、しかも直ぐにも親しめるやうな作者が、性格の絕えざる發展の跡を辿ることも出來よう。その理解力は鋭敏なる把握力と相待つてあらゆる眼前の現象に迫り、勞作四十年の長きに亙りながら、しかもすこしも匠氣のために煩はさるゝところがない。これを天稟と言はない譯にはいかない。さういふわたしはしばらく國を離れ遠い南米の旅に上つて來て、發起人の一人としての責任も果し得ないのを遺憾に思ふ身であるが、多くの讀者諸君が出版者と共に本全集の完成に協力せらるゝことを切望してやまない。これが諸君に殘して行くわたしの願ひである。

昭和十一年七月十八日、大阪商船にて

編纂委員 五十音順

岡田三郎 池寛 菊 米正雄 久 里見弴 島崎藤村 中村武羅夫 廣津和郎 室生犀星

内容見本進呈

頒價 毎月一冊 一圓五十錢 申込金不要

第一回配本第四回は全國各書店にて自由に購讀中

里見弴氏曰く 生き方に於ては、德田さんを師と仰いでゐる。だから、場合によつて「先生」と呼ばうことを躊躇しない。この頃來德田さんはもつともつと正直になれるだらうと思ひ私にはその姿を見ることが樂しみに耐へられる。全集は、一部にも余計貰れるやうにと祈つてゐる。

裝幀 著者自裝 題簽 鶴田謙堂

自然主義前期

第一卷 罎のゆくへ 蔦柑子 河浪 惰けもの 驕慢兒 春光 桎梏 前夫人

自然主義時代

第二卷 足袋の底 出産 四十女 北國産 勝寄 日南 ぼつこ リボン 痛み 犠牲 二老婆 發育 小乳蟲 診察 脊負揚 南國 わなゝき さびれ 入院の一夜 他二十篇

第三卷 黴 足迹 爛

第四卷 あらくれ 奔流 無駄道 新世帶

第五卷 蒼白い月 或醫美婦 治の一日 死の執著 勝敗 宇宙に迷ふ 郷外 の聖 妥協 好奇心 穴冷たい目 見 骨壺 指輪 離るゝ心 他十四篇

第六卷 花が咲く 風呂桶 挿話 未解決のまゝ 籠の小鳥 車掌夫婦の死 フアイヤガン 不安の中 勉吉の打算 感傷的の 事 きのこ 初冬氣分 他十六篇

自然主義後期

第七卷 折鞄 神經衰弱 ほとり 元の枝 一春來る 和む 夫を逐ふ 間 透けた小

昭和五年一月より十一月まで毎月一回配本 全十一回 自然主義文學の最高峰と稱せられる德田秋聲氏の傑作は悉く自然主義後期に屬する作品である。

左記の德田秋聲氏著作品御申込の方は一冊ずつ、全集編纂のため購讀者諸君にお送り致します。

第八卷 勳章 チビの魂 二つの上 白い足袋の思ひ出 町の踊り 場 金庫小話 死に親しむ 部屋・解消 一つの好み 一壺の花 猶喪旅日記 霧 裸像 和解 目の疊 ひびの入つた笛 蠶繭の圓舞曲

純粹長篇

第九卷 何處まで

第十卷 假裝人物

通俗小說

第十一卷 秘めたる戀 結婚まで 戀愛放浪

第十二卷 路傍の花

第十三卷 斷崖

第十四卷 黄昏の薔薇

別冊 隨筆 感想

鳥子を取りに 聲會貧 過ぎゆく日 貧物 浪の音 女流作家 他二十篇

非凡閣

東京市小石川區小町 表

規定 卷數 全十冊 卷・他に別冊一冊 體裁 四六判 九ポイント活字パラルビ付六百頁前後（作品により頁數不定） 原稿用紙 菊判・朱罫入 製本 毎月一冊一回配本・第一回は目下製作中・第二回以後は十一月より順次配本 申込 最寄の書店又は直接本社へお申込み下さい。 申込金不要

徹底・足迹・爛

第一回配本

豫約募集・全十五卷内容

自然主義前期

第一卷 罎のゆくへ 蔦柑子 河浪 惰けもの 驕慢兒 春光 桎梏 前夫人

自然主義時代

第二卷 足袋の底 出産 四十女 北國産 勝寄 日南 ぼつこ リボン 痛み 犠牲 二老婆 發育 小乳蟲 診察 脊負揚 南國 わなゝき さびれ 入院の一夜 他二十篇

第三卷 黴 足迹 爛

第四卷 あらくれ 奔流 無駄道 新世帶

第五卷 蒼白い月 或醫美婦 治の一日 死の執著 勝敗 宇宙に迷ふ 郷外 の聖 妥協 好奇心 穴冷たい目 見 骨壺 指輪 離るゝ心 他十四篇

第六卷 花が咲く 風呂桶 挿話 未解決のまゝ 籠の小鳥 車掌夫婦の死 フアイヤガン 不安の中 勉吉の打算 感傷的の 事 きのこ 初冬氣分 他十六篇

自然主義後期

第七卷 折鞄 神經衰弱 ほとり 元の枝 一春來る 和む 夫を逐ふ 間 透けた小

昭和五年一月より十一月まで毎月一回配本 全十一回 自然主義文學の最高峰と稱せられる德田秋聲氏の傑作は悉く自然主義後期に屬する作品である。

左記の德田秋聲氏著作品御申込の方は一冊ずつ、全集編纂のため購讀者諸君にお送り致します。

第八卷 勳章 チビの魂 二つの上 白い足袋の思ひ出 町の踊り 場 金庫小話 死に親しむ 部屋・解消 一つの好み 一壺の花 猶喪旅日記 霧 裸像 和解 目の疊 ひびの入つた笛 蠶繭の圓舞曲

純粹長篇

第九卷 何處まで

第十卷 假裝人物

通俗小說

第十一卷 秘めたる戀 結婚まで 戀愛放浪

第十二卷 路傍の花

第十三卷 斷崖

第十四卷 黄昏の薔薇

別冊 隨筆 感想

鳥子を取りに 聲會貧 過ぎゆく日 貧物 浪の音 女流作家 他二十篇

規定 卷數 全十冊 卷・他に別冊一冊 體裁 四六判 九ポイント活字パラルビ付六百頁前後（作品により頁數不定） 原稿用紙 菊判・朱罫入 製本 毎月一冊一回配本・第一回は目下製作中・第二回以後は十一月より順次配本 申込 最寄の書店又は直接本社へお申込み下さい。 申込金不要

東京市小石川區小町 表

シオノギ

感冒 頭痛に

シオノ製品

アスピリン

遊離酸を含解變質せず吸せられ、アスピリンの全效力を遺憾なく發揮す

製造元 株式會社 塩野義商店 大阪 東京

ノーシン で頭痛はどこへ行つたやら

（東京・大阪）クリヨ株式會社

酵母菓子

ビスコ

い味美…う

もんさ母お

つやおるなくしは

一ケ・十錢

臺灣日日新報　第一万二千百五十六號　昭和十一年十一月十日

國家の興隆する本は精神作興週間に當りて

（二）

一

現在の國情は、世界的にも大自覺を見るであるが、同時に日本自體に於ても、國の興隆から見て正に非常時に在り、國民國家の反省と覺悟を促さねばならぬものがあるを事を痛感せねばならぬ。例へ政治上の問題にしても、立憲と云ふに依て其自覺を與にし、國政革新上の問題にしても、根據的には革新の必要なる點に一致するが、一歩その具體案に入ると夫れ此點此處の形ちとなる。國民の覺悟生活と國家の非常時財政との關聯、人口增殖に伴ふ生活經濟に關する諸問題等が、一般の國民——特に青年に與ふる影響上の重大なるものならざるものは無い。

二

然らば、この國家の難關を突破すべき國力とは何であるか、それは外でもない、國民が一體となつて、我國固有の國體精神を發揮し、之に力と自信と優越を與り切るの外はない。今日、特に國民精神の作興が叫ばるる所以のものは、實に此點に重點が置かれてあるのである。而して此のため地方々々に於て國民精神の作興週間等が設けられ、日本國民らしい元氣を振作するの點に出てゐる。吾等も双手を擧げて之に賛し、强力なる國民の合成力に依て國家的力を計會的信用の回復を期したく思ふものである。

三

扨も今日は大正十二年十一月十日國民精神作興に關する詔勅を國民に賜はつた記念の日に當る。十餘年前の國內非常時に鑑はつた詔勅を今日機を正しうして奉讀すれば、現在の非常時局の下に於て更に深甚の感銘に對しても、誠に導く所大なるを感ずるのである。吾等は本日の此記念日に際し、先帝の下し給うた國民精神作興の詔勅を、心あるる國民は勿論なく奉讀の上、各自の職分を勵精して其の實效を擧ぐるに努めたい。先帝陛下は、右詔勅の中に於て「冒險進取に、國家發展の本は、國民精神の振興に在り」之を擴張して「一國本を築くぞるべからず」と云ふ國民教育の大本を國民に御明徴はされた。

二、三日に「國家非常時局を開け、人智日に進む、舊れども淨新放縱の習弊に陷し、輕佻浮薄の風を生ずる」と。安逸、計算の觀念と自覺と、之に及び時勢を革めずんば、或は國家を危殆に陷らるるに至ることを說き又「現代思潮の趨勢を察せざれば、御聖訓の精髓を體得して其の實效を擧ぐるに努めるのである。實に教育の權衡を失ひ、冒險の精神を缺き、輕佻浮薄の風を助長するが如きは、眞に國家の大不幸である。

五

我國民精神の振作は、大にしては國と國家の危局突破の原動力たるものであるが、同時に個人の日常生活に於ても亦之に依て生活方式の改正と改善を促進し、更に一新が實つてゐては、幾ら何を何處でやつても成功の望みは絶對にないよう。事を成し遂ぐる爲めには時局と精神作興週間に力つてゐるが、此の週間だけの事でなく、常に自ら魂を磨練し、國民なる精神を以て事に當つてゐるまでである。

西班牙新政府は成るべく早く承認

我外務當局の見解

【東京九日發】九日矢野スペイン公使から外務當局へ、この公電に依れば、マドリッド陷落も一、二日に迫つたとの事である。當面の問題は、陷落と同時に起る新政府の承認であるが、これは歐洲各國共通に主天の關係を持つ興味ある外交問題である。右に關し

◇…帝國の態度　帝國としては、成るべく早く承認する方針であるが、これは單に帝國のみならず、英佛伊獨等の動きを見てからでも遲くないが永く不承認では新政府に對する關係國間もあるから適當な時期を見計らひ成るべく早く承認するのが良い事である。承認の時期は第一次がポルトガル、イタリー、ドイツ第二次はイギリス、フランス、アメリカ第三次が其他の國の順序となるまい。

◇…承認の順序　ポルトガル、イタリー、ドイツの三國は既に承認を與へてゐるが、これは三國が共產黨の裏面工作と戰つた關係上、新政府の成立を見るや、直ちに承認したものである。

◇…新政府の見透し　新政府は明白である。我國は英佛獨伊のやうに投資もなく關係國民も殆んどいないから大體英佛の動きを見てからでも遲くない。

抗日團體運動に彈壓を嚴命す

中國共產黨の裏面工作と判明

冀察政務委員會が

【北京九日發同盟】冀察政務委員會は最近北平各大學を中心とする一般教育及び學生團に、南京政府に於ける北支、防共及び經濟問題を宣傳資料として各方面に配る抗日團體運動の調査を進めた結果、中國共產黨の裏面工作と判明し、冀察政務委員會は之が彈壓を嚴命するに決し、北京、東北、燕京等の各大學では既に嚴重なる細胞組織が成立されて居り、學生團體、民族開放先鋒等の名義で各種の運動を起し、對日大衆運動を起さんとしてゐるが、これ等は何れも共產黨の指導下にあるが、財務の各部長を歷任し、初めての發會を開いた。これは從來望まれつつも實現されなかつた事で、明るい冀察建設の曙光を擧つて來任した小林總督にお初

宮内省豫算緊縮方針で立案

畏き思召しを體し

明年度も積極多額を計上せられてゐる事は畏き御心である。豫算總額は一千數百萬圓と見られるが新豫算は皇太子殿下の御入學を待つ學習院初等科の改築費（昭和十二年より二年計畫）内倉庫の第二期工事、大膳調理場改築其他である。御同意會議で可決の上は西園寺、一木兩帝室顧問に諮り十二月中には御裁可を仰ぐ事になつてゐる

河北の國民黨部再建

陳委員が蔣氏と協議

【上海九日赤星特派員發】國民黨中央黨部常務委員陳立夫氏は南京に於ける國民黨部の再建問題につき協議する爲め來滿、國民黨部は極秘裏に滿洲に滯在中の同氏と會見、重要事項に關し懇談を行つた。

海軍異動を海相が內奏

【東京九日發】九日午後一時宮中に參內、天皇陛下に謁見仰付られ海軍定期異動に關し奏內奏の上、決定する筈。

第二次四相會議

陸、海兩次官も出席

【東京九日發】一中央行政機構改革に關する第二次四相會議は九日午後一時から總理官邸に開かれ、廣田總理、馬場藏相、永野陸相、長谷川海相、平生の四相に加へて、吉田內閣書記官長、堀內法制局長官、河原田內務次官、小林總督、大藏、內務兩省の各局長等が列席して、總督府官制改正案に關する協議に入り、過般閣議決定された行政機構改革案を中心に總督府官制改正の具體案を作成することとなり、九日の會議では、財務の各部長を歷任し、初めての發會を開いた。これは從來望まれつつも實現されなかつた事で、明るい冀察建設の曙光を擧つて來任した小林總督にお初

北支經濟開發策

本格的實踐へ

池田參謀八日歸任

官民を招待

茶話會を開く

長官、臺中市巡視

貴院制度調査會

十四日に第一回總會

【東京九日發】貴族院制度調査會は九日午後一時から貴族院第一會議室に開かれ、第一回總會を開き、委員の互選を行つた結果、次の如く決定した

內閣書記官長　廣沼　貞幹
法制局長官　大田　正一郎
內閣書記官長　吉田　茂
內務次官　湯澤三千男
貴族院書記官長　世古　一穗
同　南　弘
同　渡邊　千冬
同　男爵　黒田　長和
同　酒井　忠正
貴族院事務官長　小坂　順造
同　岩田　宙造
同　水野錬太郎
同　昭和　喜次郎
同　松平　恒雄
同　佐々木行忠
勅選　男爵　鍋島　直明
貴族院議員（互選）
子爵　下村　宏
同　岡　實
衆議院議員
同　深田敬一郎
同　槇原悦二郎
同　牧野　良三
同　松本　忠雄
貴族院制度調査會委員被仰付（官選）
內閣書記官　福澤　光曄
法制局參事官　泰山　鋭一
內閣調査局調査官　中村　清二
內務書記官　原口　保之
貴族院書記官　櫛田　正夫
（官選）
貴族院議員
子爵　大村　清一
男爵　一條　實孝
同　千賀　鹿之助
同　長岡　隆一郎
同　阪谷芳郎
同　男爵　鍋島　直大
同　男爵　酒井　忠亮
同　男爵　有馬　賴寧
同　子爵　清水谷實英
同　子爵　柳原　義光
同　子爵　高木　正得
同　子爵　有馬　賴萬
同　子爵　松平　直亮
同　子爵　松平　康國
同　子爵　松平　康民
同　子爵　松平　康昌
同　子爵　松平　康平
同　子爵　松平　康春
同　子爵　松平　康英
同　子爵　松平　康正
同　子爵　松平　康保
同　子爵　松平　康定
同　子爵　松平　康哉
同　子爵　松平　康載
同　子爵　松平　康長
同　子爵　松平　康榮
同　子爵　松平　康安
同　子爵　松平　康衛
同　子爵　松平　康安
同　子爵　松平　康安
同　子爵　松平　康安

大戰景氣

再來を思はす 造船熱の勃興！

建造中轉賣により早くも 船成金が現出〳〵

世界經濟界と極東の重要性

漸次その市場地位を高む

糖稅改正と新糖の探算

消費稅引上額の多き

結局會社が負擔

公債政策遂行が馬場財政の試金石

早くも難澁の兆

經濟時事解說

島内契約 火災保險 六萬五千六百件

堂島市場の 大解合成立

内地金融界に見る 最近の異變狀態

併し未だ基調は變らぬと思ふ

荒木臺銀理事談

石鹼の移入增大

十月迄に約二百萬

商況（九日）

臺北州産組監事講習

臺中米價

臺北州産倉協會 豫備檢查

臺米現物相場

堂島内米市況

大阪株式

大阪期米後場

堂島米況後場

堂島雜觀

東京株況前場

東京短期後場

大阪長期後場

大阪短期後場

各地米引跡氣配

堂島兩建控除後含

東京期米後場

神戸期米後場

大阪期米後場

内地金融市場

臺中米價

大連出張所

大連特産前場況

大連特産出來高

大連特産在荷高

大連特産前場

臺穀建値

臺銀建値

北濱雜觀

基隆在庫米

正米市況後場

高雄在庫米

新發賣

東京帝大内科で

十數年臨床實驗の

醫學博士 井早彦生氏研究創製

創製に就て

現在胃腸藥に無數にありますが、胃腸患者の數も甚だ多く、全人口の約四割に達するとさへ言はれて居ます。ここに於み、井早博士始め他の専門家が、多年にわたり協力苦心の結果、つひに創製したのが新藥胃腸トモサンであります。

胃腸にトモサン

組成と本質

新胃腸藥トモサンは、消化劑でも、榮養劑でも、酵母劑でも、また無論、單なる鎭痛劑でもありません。

新發見の制酸、被覆、吸着劑（微アルカリ性、活性珪酸アルミニューム）と植物性の殺菌劑とを綜合した藥品であります。

即ち、胸やけがするのも、消化が惡いのも、下痢するのも、便秘するのも、榮養を吸收しないのも、すべて胃腸機能に障害があるからである。故に胃腸病に對し、消化劑、或は榮養劑も必要であるが、それ以上に先づ胃腸障害を除く事が根本的眼目であると言ふ點に基き、創製したのであります。

藥理作用

一、胃の分泌腺を整調し、同時に胃と腸の粘膜の炎症、潰瘍部を治療す。

二、腸内の有害細菌を殺菌し、胃腸内の毒素、腐敗物を吸着して體外へ排出す。

トモサンの藥理作用は右の如く、極めて簡明であります。しかしながら此の作用は、胃腸の病者に對し、實に次の如き效果を有するのであります。

治療的效果

第一に、胃腸が整調すれば、胃の酸の分泌は多からず少なからず正常となり、從つて胸やけ、食もたれ、醱酵等の症狀は、減退するのであります。

また胃と腸の粘膜の、炎症、潰瘍が治療されれば胃と腸の内壁は自ら强壯となり、胃痛、腹痛等は輕快し食物は消化され榮養分の吸收率も高まるのであります

第二に、腸内の有害細菌を殺菌し、また毒素と腐敗醱酵物を吸着して大便中に排出すれば、下痢、裏急後重、嘔吐、便祕等の症狀は消失するのであります。トモサンが食餌中毒、毒酵診等に奏效するのも、胃腸内の毒素と腐敗物を吸着して、大便中に排出するからであります。

斯くの如くトモサンは、胃腸の障害を治療し、胃腸をして胃腸本來の機能に復さしむる事を主眼とした所に、新發賣の價値と意義を有するのであります。

從つて永だ發賣早々ではありますが、トモサン愛用者は日に日に增大しつゝあります。

故に會社なき下痢、嘔吐、腹痛に勿論の事、たとへ多年にわたる慢性胃腸病に對しても是非トモサン服用の上、今までの胃腸藥とはかに相違するを、御實驗あらんことを切望いたします。

トモサン　一箱（六十錠入）　金八十錢　送料二錢

發賣元　友田合資會社

東京市日本橋區本石町三ノ一

トモサン　電話（二四三）番

日本橋支店　電話（二四三）番

發賣元　東京・一三六